



ホールの大きな窓は、高価なステンドグラスの代わりに窓枠に幾何学模様を配し、工費を抑えたという

DATA

名称 自由学園明日館
所在地 東京都豊島区西池袋 2-31-3
完成 大正14年
設計者 フランク・ロイド・ライト



東京のレトロ建築を歩く

第12回

自由学園 明日館

みょうにちかん

羽 仁もと子、吉一夫妻が大正10年（1921年）に開校した自由学園の校舎として、自由学園明日館は大正14年に完成した。

設計したのはアメリカ人の建築家フランク・ロイド・ライト。日本におけるライトの右腕と呼ばれ、また羽仁夫妻の友人でもあった建築家の遠藤新が、帝国ホテル設計のために来日していたライトと羽仁夫妻を引き合わせた。

新時代の形成のために女性や子どもの教育を重視し、「生活」を学びの中心に据えるという羽仁夫妻の信念に、ライトは共鳴し設計を引き受けたという。

ライトは、「簡素な外形のなかにすぐれた思いを充たしめたい」という羽仁夫妻の思いを基調とし、自由学園の設計を完成させた。

建築の特徴は、高さを抑え水平線を強調した屋根、窓やドアの幾何学的なデザインなどである。「プレイリースタイル（草原様式）」と呼ばれるライトの作風が、よく表われているという。

ホールの窓は、高価なステンドグラスを使用する代わりに、木製の窓枠や棧を幾何学模様にして工費を抑えつつユニークな空間構成を実現するなど、ライトは限られた工費のなかでいかに空間を充実させるか、ということに尽力した。

平成9年（1997年）に国の重要文化財に指定された。



ホールが印象的な自由学園明日館



ホールの椅子も、ライトあるいは遠藤の手によるといわれる



最初の入学式が行なわれた「記念室」



「食堂」の照明もライトによりデザインされた